

第 2 回八潮市振興計画審議会 議事録

開催日時	令和 7 年 1 月 7 日（火） 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 1 5 分まで	開催場所	八潮メセナ 2 階 集会室
出席者 (敬称略)	(1 号委員) 木下 史江 (2 号委員) 宇田川 武雄、織田 隆志、狩野 稔、杉本 裕介、昼間 竹雄、藤波 達也、藤波 光子、福野 敏子、宮本 敏幸 (3 号委員) 山田 洋 (4 号委員) 大山 恵美子、小倉 潤子、佐藤 恵子		
欠席者 (敬称略)	大塚 一宏、佐藤 順一、篠木 秀彦、高木 洋介、 平本 なるみ、籠倉 正美	傍聴者数	1 人
内 容	1 令和 6 年度第 2 回八潮市振興計画審議会 (1) 開会 (2) 諮問 (3) 議事 ① 第 6 次八潮市総合計画（序論）素案 ② 第 6 次八潮市総合計画（基本構想）素案 ③ 第 6 次八潮市総合計画（基本計画）原案 (4) その他 (5) 閉会		
提供資料	次第 資料 1 第 6 次八潮市総合計画（序論・基本構想）素案 資料 2 第 6 次八潮市総合計画（基本計画）原案 別紙 将来都市像（案） 参考資料 1 分野・施策 比較表 参考資料 2 用語集 意見書 第 5 次八潮市総合計画 八潮市都市計画図		

【議事詳細】

令和6年度八潮市振興計画審議会

(1) 開会

(2) 諮問

(3) 議事

① 第6次八潮市総合計画（序論）素案について

資料1 第6次八潮市総合計画（序論・基本構想）素案の序論部分について説明

【質疑応答】

□委員からの意見

第6次八潮市総合計画策定基本方針において、ダイバーシティ社会の実現を策定のポイントに記載されていたが、社会潮流の展望や主要課題などに記載がないのはなぜか。

→ 基本理念の共生・協働のまちづくりにダイバーシティの概念も含まれていることや、基本計画の中でダイバーシティについて記載している。

○委員からの質問

ダイバーシティとはなにか。

→ 年齢や性別、障がいの有無など、違いを否定することなく、だれでも同じように生活ができるように認め合って生きていこうというような考え方である。

○委員からの質問

11ページに「スマートインターチェンジの整備を進めるとともに」と記載があるが、スマートインターチェンジの整備は確定していることなのか。実現可能性なども考慮し、表現の工夫も必要と考える。

→ 埼玉県から都市計画事業が認可され、現在整備に向けた調整を進めているところである。

○委員からの質問

「しなやかさ」という言葉がよく使われているが、この言葉のイメージが湧かないため、八潮市としてはどういうイメージで「しなやかさ」という言葉を使っているのか。

→ 国土強靱化の中でよく使われる言葉であるが、一般的には「強」の部分は防災のことで災害を防ぐことを指し、「靱」は起こってしまった災害に対してできる限り被害を軽減し、速やかに復旧できるようにといったことを指している。その「靱」という部分を「しなやかさ」という言葉で表現し、その他にも社会の様々な変化に迅速かつ柔軟に対応するというイメージも兼ねている。

② 第6次八潮市総合計画（基本構想）素案について

資料1 第6次八潮市総合計画（序論・基本構想）素案の基本構想部分について説明

【質疑応答】

□委員からの意見

八潮市に住んで20年ほどになるが、すごく好きで、自分の子どもも八潮市に住んでほしいなと思っているし、八潮市に住んでいることを誇りに思っているので、案1がわかりやすいし良いと思っている。案2には「笑顔で」という明るい言葉があるので、案1にもそういった言葉が入っているとより良いと思う。

→ 意見を踏まえて内部で検討する。

□委員からの意見

将来都市像については、第5次総合計画の「住みやすさナンバー1のまち 八潮」を継続していくこととするのであれば、第5次八潮市総合計画からあえて変えないことを記載したほうが良い。

→ 記載内容について検討する。

○委員からの質問

シビックセンターとはなにか。

→ 一般的には市民のための施設などを指すことが多いが、都市核のシビックセンターについては、市民文化会館や楽習館などの市民が集まることができて、交流や活動の場となる機能の維持や充実を図る拠点として記載している。

□委員からの意見

八潮市の規模で複数の拠点を形成してつなぐという大都市型の発想を目指す必要があるのか。過去に拠点の形成について、いろいろな検討がされてきたものの、東部拠点と西部拠点については、何も変化がない。とはいっても長期的な視点でみれば、記載があっても良いとは思う。また、将来都市構造図ではなく、将来都市構想図であれば良いと思う。

③ 第6次八潮市総合計画（基本計画）原案について

資料2 第6次八潮市総合計画（基本計画）原案について説明

【質疑応答】

○委員からの質問

不登校児童生徒の発生率はどのように算出しているのか。第5次のときの現状値と比較すると、現代社会の不登校児童生徒が増えているというのが八潮市にも出ているということが見て取れるが、そのような指標を載せていくことが適切なのか。不登校児童生徒が増えていることについて原因追及をしているのか。また、理想としては、0%がよいと思っている。

→ 算出方法として、不登校児童生徒数については毎月調査を実施しており、最終的な1年間の状況から「不登校児童生徒数÷全在籍児童生徒数×100」で算出している。不登校児童生徒の発生率の推移については、新型コロナウイルス感染症の流行を境に、増加に転じている。現在では新型コロナウイルス感染症については状況が落ち着いてきたものの、子どもを取り巻く環境の変化が大きな要因となっていることも考えられることから、相談体制の充実などを図っていくことで引き続き取り組んでいきたいと考えているため、関連する指標に記載している。

□委員からの意見

青少年育成の部分で、やしお子ども週末活動実施回数と参加者数について、平成26年度が41回5,424人、令和5年度では18回2,076人の参加校が6校程度だと思うが、令和6年度においては参加校が3校しかなく、仮に3回程度ずつ開催したとしても10回程度になってしまうため、この指標は適切なのか。PTAが減少している中で、この指標の目標40回というのは現実的に難しいと思う。また、家庭教育学級についても同様のことが言えるため、精査が必要と考える。

→ 意見を踏まえて、内部で検討する。

□委員からの意見

10年後の八潮を考えたときに、デジタル化や負担軽減などいろんなものが削られているが、やはり子どもの教育の中では、人が携わったり、地域が子どもたちと一緒にやっていかなければいけないと変わっていくのではないかな。なくなったものがやっぱり大切だったと気づくのではないかな。私としては、この取組を通して、地域が動いて、子どもたちのためにこういうことをしようという市民が増えて、40回という目標を目指すことに希望を持てた。不要とされたものが大事だったと思うことがこの10年間であるのではないかな。心豊かに子どもを育てていきたいとみんなが変わるのではないかなと思っているため、この目標のままでよいと考えている。

□委員からの意見

「八潮市子ども会育成連絡協議会と連携し」と記載されているが、子ども会がほとんどなくなってしまっていることや、協議会も若い世代がいない状況にある中で、連携していくのはどうなのか。学校のほうで働き方改革が進んでいるからなのか、学校に負担をかけにくい印象がある。子どもを取り巻く環境を考慮した計画としていただきたい。

(4) その他

第3回八潮市振興計画審議会については、3月26日（水）13時30分の開催を予定しているため、後日ご連絡をさせていただく。

(5) 閉会

以上